

多摩コミュニティビジネス シンポジウム 2018 『ライフシフト』時代 試されるまちのプロデュース力 開催レポート！

多摩CBネットワークの記念すべき10周年イベント！

2018年3月17日、東京外国語大学 府中キャンパス アゴラ・グローバルで「多摩コミュニティビジネス シンポジウム 2018 『ライフシフト』時代 試されるまちのプロデュース力」が開催されました。

このシンポジウムは、多摩エリアにコミュニティビジネスを広げるべくスタートした多摩CBネットワークが毎年開いているイベントで、今年で10回目の開催を迎えることができました。今回はその記念すべき10周年イベントの様子をレポートします！



10周年の節目となる今回、イベント開催時間はトータル6時間と特大のボリューム。講演にはじまり、プレゼンテーション、トークセッション、さらには社会課題や地域課題の解決に取り組む企業・NPO法人・団体の紹介ブースが設けられるなど、内容も盛りだくさんです。会場には、多摩でコミュニティビジネスを営む人たちが一堂に集まり、年に一度の同窓会のようなにぎわいを見せていました。

一歩足を踏み入れると、地域のあちらにもこちらに知り合いが増えていくのがコミュニティビジネスの世界です。シンポジウムの会場でもあちらこちらで、みなさんが「あら、どうも、どうも！」「ごぶさたですね～！」「あ！ 紹介したい人がいるんですよ！」なんて挨拶を交わし合う姿が。アットホームで、和気あいあいとした雰囲気の中、いよいよイベントは幕を開けました！

〔第 1 部 講演〕

人生 100 年時代を生きる思い

自分の人生は、自分で切り開く

NPO 法人 JKSK 代表 木全ミツさん

女性が社会で活躍する道をつくり続ける木全さん

第 1 部は NPO 法人 JKSK 代表の木全ミツさんによる講演でした。

木全さんは、1960 年に東京大学医学部を卒業して、労働省に入省。アジア、アフリカ、中南米の開発途上国の人材育成に約 15 年携わります。

その後の 3 年間は、ニューヨークで国連日本政府代表部公使として外交活動に参画するなど、官僚として 30 年のキャリアを積んだ後、The Body Shop（Japan）の初代代表取締役社長を 10 年にわたり経験しています。

そして現在は、「NPO 法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に」を立ち上げ理事長として活躍をしていっています。



約 90 分にわたって講演をしてくださった木全さん。力強くもしなやかなその生き方には、お手本にしたい姿勢や考え方がたくさんありました

木全さんは、自身のキャリアを振り返り、自分の人生を自分で切り開いてきた 10 個の決断について話してくださいました。木全さんのキャリアは、キラキラ輝かしく真似しようにもできそうにありません。でも、そんな木全さんの独自のあり方にも、参考にしたい部分を多々見つけることができました。

そのひとつが「与えられたことを一生懸命にやること」です。

木全さんは話します。「わたしが生きてきた時代はいまよりも男性優位の時代。でも、それを憂いてもこの日本で生きていくしかありませんでした。だから私は決めたんです。男性優位の社会なら、それを理解して男性とは争うのではなく、にこやかな笑顔で乗り越えようと」。

木全さんはそんな姿勢で、与えられた目の前の仕事に誠実に向き合い続けたといいます。そして実績を積み上げると「多くのことを任せてもらえるようになりました。前例のないようなプロジェクトでも結果を残し続けた結果、いつしか“女性”の前に立ちふさがっていた壁や天井を取り払うことができたのです」。

木全さんは 90 分間、疲れるそぶりをおくびにも見せない堂々たる話しぶりです。その凜とした立ち姿に、木全さんの筋の通った生き方が表れているようでした。

客席に座る人たちも、静かに、でも、聞き漏らすまいとその話を心身に染み込ませました。

<第2部>

企業による「社会課題の解決」

街直し屋 ～まちとひとを再生させる仕事～

ユニバーサルデザイン総合研究所所長

一般社団法人 CSV 開発機構理事長 赤池学さん

社会的な課題をデザインのアプローチで解決する発想法

続いて、第2部では、日本テレビ「世界一受けたい授業」にも何度も出演したことのある、ユニバーサルデザイン総合研究所所長の赤池学さんが登場しました。



赤池さんは、インダストリアルデザイナーの立場から、課題解決のためのユニバーサルデザインの考え方について熱弁。

「多様な地球市民」「次世代の子どもたちやまだ見ぬ子孫」「歴史を紡いだ先人たち」「多様な自然や生態系」そのすべてに向けたデザインを提供する「Design for All」の考え方を軸に、赤池さんが手掛けたデザイン事例を多数紹介してくださいました。



赤池さんの事例は豊富にありすぎて、時間がいくらあっても足りないほど。時間をオーバーしつつ、あふれんばかりの情報をお伝えいただきました。

<第3部>

多摩コミュニティビジネスの実例

地域の課題は、地域で切り開く

東京外国語大学ソーシャルビジネス研究会 和田一希さん

コーディネーター 多摩ネットワーク世話人 長島剛さん

多摩のコミュニティビジネスの好例がたっぷり！

第3部では多摩CBネットワークの世話人のひとりでもある長島剛さんが登場。東京外国語大学でソーシャルビジネス研究会を立ち上げた和田一希さんと一緒に、多摩地域でユニークな展開を見せているソーシャルビジネスの事例7つを紹介しながら、“それらの事例から見えてくるもの”について発表を行いました。



多摩CBネットワーク、世話人のひとりである長島さん



東京外国語大学ソーシャルビジネス研究会の和田一希さん

7つの事例はそれぞれ、シェアオフィスや創業支援を手がける「株式会社タウンキッチン」、メディアを通じて多摩地域の情報発信を行う「株式会社グッドライフ多摩」、東京農業の流通を通じて新しい縁と楽しい食卓を育てる「株式会社エマリコくにたち」、調布の価値を向上させて調布を活性化する「一般社団法人調布アイランド」、国立でシェアスクールや起業セミナーなどを運営する「リトマス」、多摩エリアの林業をデザインする「株式会社東京・森と市庭」、まちづくりを通じて立川に多くのファンをつくる「株式会社まちづくり立川」です。

客席には各団体の代表者が座っていて、途中、長島さんから質問のトスがあがり、臨機応変な質疑応答へ。

こんなふうに多摩のコミュニティビジネスのキーパーソンたちが勢ぞろいしているのは、このシンポジウムの醍醐味のひとつです。長島さん、和田さん、そしてキーパーソンたちのやりとりのアットホームな雰囲気、コミュニティビジネスならではのぬくもりが感じられました。



「タウンキッチン」の北池智一郎さん



「グッドライフ多摩」の石原靖之さん



「エマリコくにたち」の菱沼勇介さん



「調布アイランド」の丸田孝明さん



「リトマス」の東希視子さん



「東京・森と市庭」の西原啓史さん



「まちづくり立川」の岩下光明さん

<第4部>

トークセッション

「ライフシフト時代」 試されるまちのプロデュース力

第4部では、第1部に登場した木全ミツさん、第2部に登場した赤池学さん、多摩CBネットワーク世話人の堀池喜一郎さんによるトークセッションです。

特定非営利活動法人コミュニティビジネスサポートセンター代表理事などを勤めている永沢映さんが、コーディネーターとしてトークをリードしました。



コーディネーターの永沢さん



多摩CBネットワーク、世話人の堀池さん

トークセッションのテーマは、会場の客席からの質問よりピックアップ。永沢さんが、スピーカー3名へとクエスチョンを投げかけます。「ライフシフト」をテーマに、3人の話はあっちへいったりこっちへ行ったり。丁々発止の掛け合いが繰り広げられました。

堀池さん「よさそうなこと、おもしろそうなことだったら、いろんな人がやっていることを、どんどんマネすればいいの。そういういい関係性がこの多摩CBネットワークにはあるよね。いまは企業もソーシャルビジネスの価値に気づきはじめています。だから、どんどん発信して、企業にだって乗り込んでいってしまえばいいよ！」

赤池さん「一回限りの人生だから、ほかにはないユニークなビジネスをつくっていきましょうよ。多摩エリアには、独自のお酒もある、武蔵野美術大学もある、いろんなおもしろいものがあるんだから、たった一人からでもアイデアを出して実践していったほしいですね」

木全さん「ライフシフトの時代、本当に変わらなくちゃいけないのは個人だと思っています。まずは個人から。そして、行政や企業の力を借りるのではなく、“一緒に！”という感覚でやっていくことが大事ですね。多摩エリアを盛り上げて、23区側を慌てさせるくらいのことをやってください」



<第5部>

展示・交流会

多摩コミュニティビジネスフェア

シンポジウムの最後はそのまま交流会へ。つながりを作り続ける多摩CBネットワーク

「多摩コミュニティビジネス シンポジウム 2018 『ライフシフト』時代 試されるまちのプロデュース力」は、ホール内でのコンテンツを終え展示会場へ移動。

その流れのまま、それぞれの団体のブースが並ぶスペースでアルコールありの交流会がスタートしました。



活気に満ちた展示ブースの様子

多摩CBネットワーク世話人のひとりである NPO 法人マイスタイルの竹内千寿恵さんが、謎の“わっしょい締め”なるもので乾杯の音頭。

わいわいがやがやと交流がはじまり、11年目となる多摩CBネットワークの新しい息吹が、また、ここから生まれようとしています！



竹内さんの“わっしょい締め”。このパワーこそが多摩CBネットワークの魅力！



多摩 CB ネットワークは、企業、行政、地域住民へとどんどん規模を拡大中。みなさんも、ぜひ仲間になって、一緒に多摩地域のコミュニティビジネスを盛り上げませんか？